

目 次

近代劇——はじめに	2
Ⅰ．マーティン——イプセンに倣って	5
1. 『ヒースの原野』	6
2. 『メイヴ』	10
3. 『魅惑の海』	12
4. 『ある町の物語』	14
5. 『グレンジコルマン』	18
6. マーティンとイプセン	20
Ⅱ．コラム——農民劇と能プレイ	25
1. 農民劇	27
2. 能プレイ	34
Ⅲ．フィッツモーリス——リアリスティックとファンタスティック	42
1. リアリスティック	43
2. ファンタスティック	50
Ⅳ．ロビンソン——アイルランド演劇のトレンド	57
1. 農民劇	58
2. 政治劇	61
3. 喜劇	64
4. 実験劇	66
5. 『屋敷』	71
Ⅴ．マレー——アイルランドのリアリズム	78
1. 『長子相続権』	79
2. 『モーリス・ハート』	81

3. 恋愛悲劇「三部作」	85
4. カトリック作家のリアリズム	91
VI. キャロル——聖職者の「影と実体」	94
1. 『カイザルのもの』	95
2. 『影と実体』	97
3. 『白馬』	100
4. 聖職者列伝	102
現代劇——はじめに	110
VII. ジョンストン——リアリズムとモダニズム	113
1. 劇作の軌跡	113
2. 『ユニコーンの花嫁』	119
3. 『夢見る遺骨』	123
VIII. ビーアン——笑いで撃つ	132
1. 『凄い奴』	133
2. 『人質』	137
IX. フリール——歴史とフィクション	144
1. 『内なる敵』	145
2. 『デリーの名誉市民権』	148
3. 『志願者たち』	153
4. 『翻訳』	154
5. 『歴史をつくる』	160
X. マーフィ——変革期の「魂の飢餓」	167
1. 『外側で』	167

2. 『暗がりの強がり』	169
3. 『食品雑貨店店員の生涯の決定的一週間』	173
4. 『飢饉』	176
5. 『帰郷の会話』	179
6. 『ジリ・コンサート』	181
7. 『バリヤガンガーラ』	185
XI. キルロイ——‘the play’s the thing’	190
1. 『オニール』	191
2. 『ロウチ氏の死と復活』	194
3. 『お茶とセックスとシェイクスピア』	198
4. 『タルボットの箱』	200
5. 『ダブル・クロス』	203
6. 『マダム・マカダム旅興業一座』	208
7. 『コンスタンス・ワイルドの秘密の転落』	209
XII. マクギネス——異質な他者	214
i. 異なるジェンダーと性	215
1. 『工場の女たち』	215
2. 『バッグレディ』	217
3. 『メアリーとリジー』	218
4. 『イノセンス』	219
5. 『黄金の門』	222
ii. 異国と異文化	223
1. 『ソナム川へ向かって行進するアルスターの息子たちをご照覧あれ』	224
2. 『カルタゴの人びと』	227
3. 『私を見守ってくれる人』	228
4. 『有為転変』	230
5. 『ドリー・ウェストのキッチン』	233

iv

注	235
主要参考書目	248
あとがき	253
索引	255